

2

山口県の地震・津波

◆ 山口県は、これまで地震による被害は比較的少ないとされていたが、過去には、大規模地震により大きな被害があったとの記録もある。

また、近年は、西日本においても地震の活動期に入ったと言われており、山口県でも、平成9年に震度5強を、平成13年に震度4の揺れを観測する地震が発生し、被害が出ている。

◆ 山口県に影響のある地震としては、30年以内に70%~80%の確率で発生されるとされている「南海トラフ地震」のほか、「安芸灘~伊予灘の地震」、「県内の活断層による地震」、「日本海側の地震」がある。

[南海トラフ地震]

南海トラフを震源とし、過去、概ね100年から150年周期で発生しており、最大マグニチュード9クラスの巨大地震が発生した場合、山口県においては、震度6弱、瀬戸内海沿岸に最大3.8mの津波が来ると想定されている。

[安芸灘~伊予灘の地震]

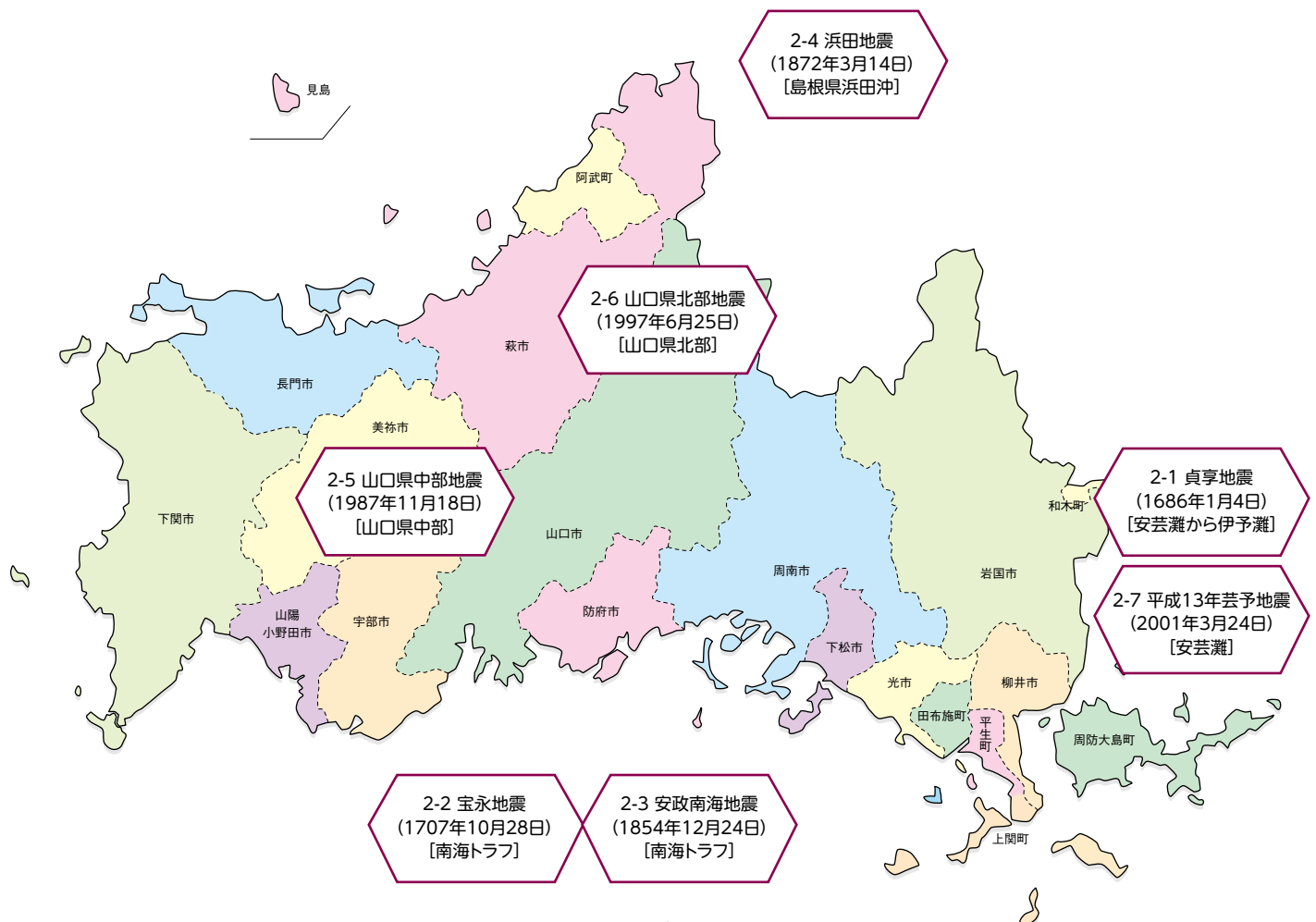
これまでも50年~100年の周期でマグニチュード7クラスの地震が発生しており、山口県においては、最大震度6弱の揺れが想定されている。

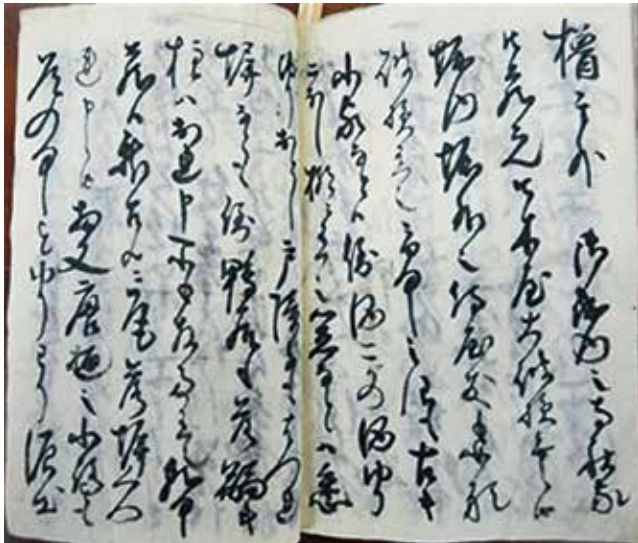
[活断層による地震]

山口県には、10以上の活断層が存在しており、これらの活断層が動いた場合、直下型の地震が発生し、最大震度7~6弱の大きな揺れが想定されている。

[日本海で想定される地震]

最大で4m程度の津波をおこすような地震が発生すると想定されている。





公儀ヨリ被仰出御書付控 (山口県文書館所蔵)



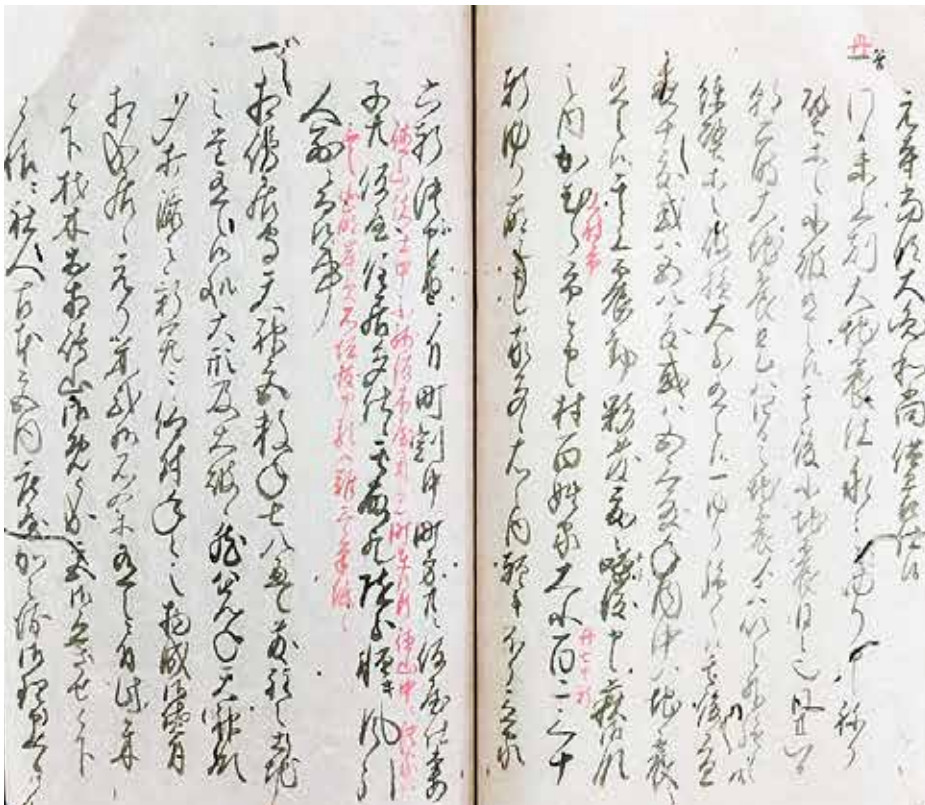
御用所日記 (岩国市徴古館所蔵)

発生年月日	貞享2(1686)年12月10日(新暦1月4日)昼
震源	安芸灘から伊予灘
マグニチュード(推定)	7.2
各地の震度(推定)	震度5強(最大震度): 広島県広島、愛媛県松山、愛媛県大洲、萩 震度5: 岩国、徳山、広島県三原 (宇佐美龍夫(2003):『最新版日本被害地震総覧 [416]-2001』, 東京大学出版会, 605pp.による)
被害の規模	<p>■「公儀ヨリ被仰出御書付控」によると、萩城で塀・石垣が崩壊し、武家屋敷の一部が破損するとともに、古い民家が倒壊したことが記されている。また、当初、城下町から離れた場所の被害は、三田尻御船倉(現防府市お茶屋町)と上関御茶屋(現上関町長島)の塀や石垣が若干破損した程度で、被害は少ないと見られていたが、後に、大島郡(現在の周防大島町)の被害が大きかったことが判明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 城内の塀や石垣が所々崩れたものの、天守閣をはじめ門や櫓、役所、寺社の建物に大きな被害は無かった。 ● 城下町では、強い揺れにより、古い家屋が倒れ、棚にあった器がごとごとく落ち、建具がはずれたり瓦が落ちた。なかでも唐樋地区では、道が割れ泥が出るといった液状化現象が起きた。また、怪我人も発生した。 ● 三田尻御船倉(現防府市お茶屋町)と上関御茶屋(現上関町長島)の塀や石垣が若干破損した。 ● 大島郡外入村(現周防大島町外入)では、建物の倒壊や地震による山崩れによって、多数の怪我人が出た。 <p>■「御用所日記」には、岩国で、武家屋敷の塀が壊れたり、多くの屋根瓦が落ちたり錦帯橋の台石がはみ出したと記されている。</p>
被害の特徴	<p>■ 貞享地震は、日本列島の下に沈み込むフィリピン海プレート内部で発生した地震と考えられており、明治38年(マグニチュード7.2)や平成13年(マグニチュード6.7)など、近年に至るまで繰り返し発生している。</p>



あきなだ いよなだ しゅうき
安芸灘～伊予灘では、これまでも50～100年の周期でマグニチュード7クラスの地震が繰り返し発生しているんだ。

じしん さいがい そな びちくひん ひじょうもちだしひん じゅんび
地震などの災害に備えて、備蓄品や非常持出品を準備しよう。



逸史 宝永四年(山口県文書館所蔵)

江戸御奉書控 宝永四年
(山口県文書館所蔵)大坂御奉書控 宝永四年
(山口県文書館所蔵)

発生年月日	宝永4(1707)年10月4日(新暦10月28日)午後2時頃
震源	南海トラフ
マグニチュード(推定)	8.6
各地の震度(推定)	震度7相当: 河内平野の一部 震度6強から6弱相当: 九州東部から甲信地域 (宇佐美ほか(2013):『日本被害地震総覧 599-2012』, 東京大学出版, 694pp.による)
被害の規模	<ul style="list-style-type: none"> ■「公儀事諸控」に、萩藩で10月4日の地震では特に被害はなかったが、24日後の10月28日に上徳地村(現山口市徳地)で地震が起こり、建物289軒が倒壊し、死者が3人などの被害が出たと記されている。 ■「大坂御奉書控」「江戸御奉書控」に、徳山で、4日午後2時から5日朝まで度々揺れたが、建物の被害は少なく、夜中に津波が来たものの、人馬等の被害はなかったと記されている。 ■「逸史 宝永四年」には、他国と比べて、地震の被害は「百分一」、津波の被害は「十分一」と記されている。 ■「防州湯田村温泉記」に「大地震泉湯亦廢。寶永七庚寅之秋注出如前焉」とあり、湯田温泉で、宝永地震の際に、温泉の湧出が3年にわたって止まったと記されている。
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山口県では、24日後の10月28日には誘発地震とみられる地震が発生し、死者が出た。 ■ 津波が発生し、九州東南部から伊豆、房総半島までの太平洋沿岸の広い範囲に大きな被害を与えた、また、地震の49日後に富士山が噴火した。 ■ 過去、南海トラフで発生した5地震(明応・慶長・宝永・安政・昭和)の中でも最大規模であり、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震の発生までは、国内で発生した史上最大規模の地震とされている。



なんかい 南海トラフで起きる地震は、概ね100~150年で繰り返されているんだ。
かこ 過去に起きた大地震を学び、次に起こる大地震に備えよう。



やないしひづみ ほうえいじしん ゆ かわごいし
柳井市日積に、宝永地震の揺れで「革籠石」という石が割れたと伝えられているよ。

革籠石〈柳井市日積〉

「玖珂郡日積村瑞雲寺近邊革籠石（かはごいし）あり。傳へ言ふ。寶永四年十月四日の夜大地震にて此岩鳴動して割れ、其中より金鶏飛出で向ひの民家に入る。其年より此家裕福になり、今に鶏は見えねど大晦日には鶏鳴の聲聞ゆと云へり。其由來は昔し敗軍の士自殺するに當り名劍を巖石の下に隠し置き、我子の搜索に便せん爲、鶏を革籠に入れて水をも添へ同所に置いて、其鳴聲を葉に取出さしめんとしたるも、餘りに日數を経鶏は革籠の中に死して、可惜名劍も遂に其所在を失ひしが、端なくも地震によりて其巖石は破裂し、鶏の亡魂は空隙を得て飛行して民家に入り、年々時を違へず鳴くと云へり。」『防長地名淵鏡』 御園生翁甫 1931、（復刻版）マツノ書店 1984

説 日積村にある革籠石から金の鶏が出てきて、民家を裕福にしたという言い伝えがある。昔、戦争に敗れた兵士が自決する際に隠した名劍を息子に見つけさせるために、鶏を革の籠に入れておいたが、結局劍はなくなり鶏も死んでしまった。しかし、その後の地震で割れた岩から鶏の魂が飛び出して民家に入り、大晦日になると決まって鳴くのだと伝わっている。



やまぐちし ゆだおんせん ほうえいじしん
山口市の湯田温泉に、宝永地震のときに温泉が出なくなり、3年後の秋に以前のように温泉が湧き出るようになったという話があるよ。

地震るい、泉湯廃す〈山口市湯田温泉〉

「然亦寶永四丁亥年十月、大地震泉湯亦廢。寶永七庚寅之秋注出如前焉。呼呼、此泉靈哉。神哉。侷與侷廢。此天運自然之盛衰神所以示人存亡之道也。即是三所權現所受之靈液而藥師佛亦以神之託乎。」『防州吉敷郡湯田村温泉記〜藥師仏と白狐のものがたり』より（荒巻大拙 2000）



湯田温泉

説 宝永4年10月、大地震が起こり温泉の湯はすっかり涸れたが、宝永7年秋、以前のように温泉が湧き出るようになった。自然の盛衰のあらわれであろうか。天が人間に存亡の道を示しているのか。

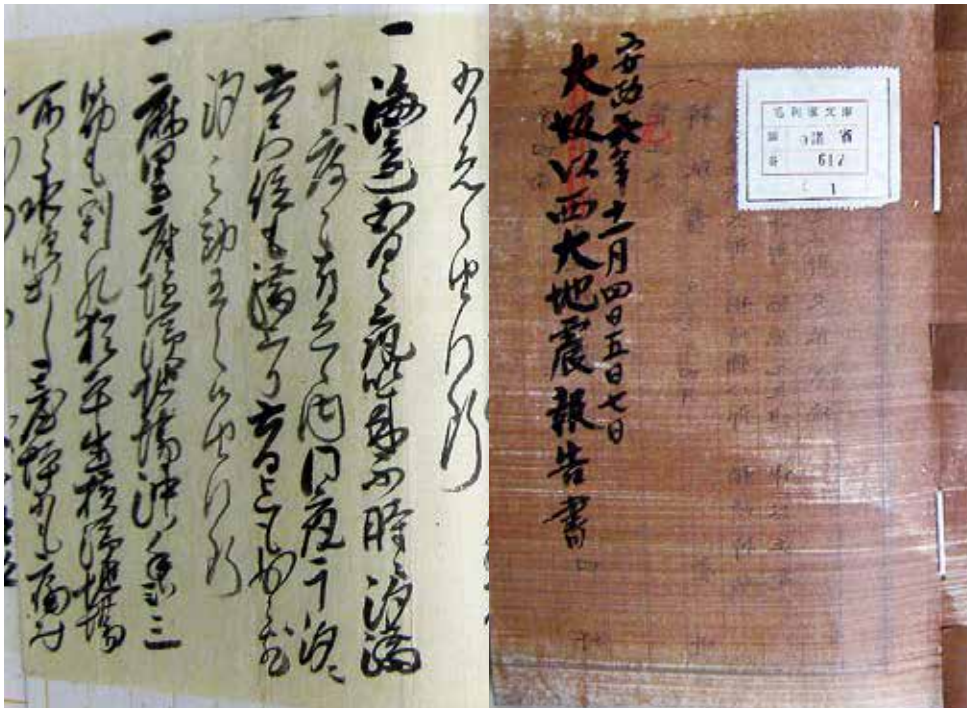
トピックス

緊急地震速報



気象庁は、地震が発生したら地震計でとらえたデータから、震源、地震の規模（マグニチュード）、震度を解析して、最大震度が5弱以上と予想した場合は、緊急地震速報をテレビやラジオなどを通して発表するんだよ。なお、震度6弱以上の揺れを予想した緊急地震速報（警報）は、地震動特別警報に位置づけられているんだ。

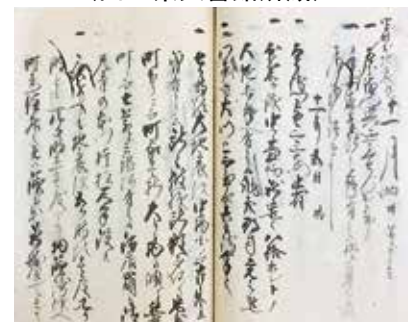
※緊急地震速報を発表してから地震のゆれが来るまでの時間は、長くても数十秒と大変短いので、緊急地震速報を聞くよりも早くゆれが起きてしまうことがある。



大地震報告書 (山口県文書館所蔵)



御三霊様御事蹟御編集掛日記
(山口県文書館所蔵)



密局日乗
(山口県文書館所蔵)

発生年月日	嘉永7/安政元(1854)年11月5日(新暦12月24日)午後4時頃
震源	南海トラフ
マグニチュード(推定)	8.4
各地の震度(推定)	震度6強又は6弱相当: 高知、徳島、兵庫、和歌山各県の沿岸部など 震度5弱相当以上: 四国を中心に九州東部から中国地方、近畿地方の西部 (宇佐美ほか(2013):『日本被害地震総覧 599-2012』, 東京大学出版, 694pp.)による)
被害の規模	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「大地震報告書」によると、萩藩領内で11月4日に小さな地震が起こり、5日に大きな地震に襲われ、その後も余震が続いたことが分かる。地震による被害は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ● 都濃郡末武下村(現下松市末武下)では高札場の玉垣が崩れ、米蔵の壁に割れ目が入り、花岡八幡宮(現下松市末武上)の石灯籠4基が倒れる被害が出た。 ● 台道村(現防府市台道)・名田島村(現山口市名田島)では干拓地の土手が割れた。 ● 平生村(現平生町)・中野開作(現宇部市中野開作)などの瀬戸内海沿岸で液状化現象が起こった。 ● 上関代官から5日夜の干潮時に180cmの津波が報告されている。 ● 嘉万村(現美祢市秋芳町)の弁天池では、地震後に湧水が濁り、水位が下がった。 ■ 「密局日乗」や「御三霊様御事蹟御編集掛日記」には、萩城下でも被害があり、米屋町の町屋一軒が大きく西に傾き、清水寺の本門の片柱が30cm程度地中に沈んだと記されている。 ■ 「御蔵本日記」には、都濃郡東豊井村(現下松市東豊井)妙法寺では、地震により台所の屋根が釜場に落ちて火事が起きたことが記されている。
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 嘉永7年/安政元(1854)年11月4日の午前9時頃、駿河湾・遠州灘・熊野灘の海底を震源とする安政東海地震(マグニチュード(推定)8.4)が発生し、約32時間後の11月5日午後4時頃に、紀伊水道から四国沖の海底を震源域として安政南海地震が発生した。 ■ 山口県の瀬戸内海沿岸では最高1.8mの津波が押し寄せ、南海トラフから350km以上も離れた萩市で家屋の倒壊などの被害がでた。



あんせいなんかいじしん
安政南海地震では、山口県にも約1.8mの津波が来たんだ。
 つなみ
 海の近くにいるときは「地震がおきたらすぐに高い場所に避難する」という心の準備をしよう。
 ひなん じゆんび

関係する石碑



すおう おおしまちょうとのにゆうごう とのにゆうごう あんせいなんかいじしん つなみ どうたつ きねんひ
周防大島町外入郷には、安政南海地震の津波が到達したという記念碑があるよ。

【祠と安政南海地震津波到達碑】

とのにゆうごう
外入郷には、安政南海地震による「大津波が大歳神（田んぼの神様）の祠がある小山の下の畑までの近くまで来た」という言い伝えがある。

平成25年8月には、外入自治会及び有志により、この言い伝えを風化することなく次世代へ継承していくため、祠のある地に「安政南海地震津波到達碑」と「説明版」が設置された。



祠と安政南海地震津波到達碑



白木漁港（外入）
地理院タイルを加工して作成

トピックス

— 周防大島町立城山小学校の取り組み —



すおう おおしまちょう つなみ すおう おおしまちょうりつ
周防大島町には、津波が来たという言い伝えが各地に残っていて、周防大島町立
じょうやましやうがっこう じょうやましやうがっこう つなみでんしやう ぼうさいきやういふく かつやう
城山小学校では、周防大島各地に伝わる津波伝承を防災教育に活用しているよ。

周防大島町には、津波襲来の言い伝えが各地に残っていることから、城山小学校では「津波伝承のお話を聞く会」を開催して周防大島各地に伝わる津波伝承を発見・継承している。また、地震津波への備えを広めるため「ぼうさいかぞえ唄」を発表している。

ぼうさいかぞえ唄

ひとつ ひとつよに つたえたい	ふたつ ふるさと ふるえるひ
さんてん いちいち おもいだせ	よっつ よこゆれ ながいとき
いつうつ いっとき みをかくせ	むっつ むかえ たかいとこ
なーみは よんばい さかのぼる	やっつ やめとこ ひきかえし
ここのつ このみも てんでんこ	とーどけ このこえ せとないかい
ひーびけ このうた にしにほん	ようじんせえ ようじんせえ
はんじやうせえ はんじやうせえ	はんじやうせえ はんじやうせえ

【タコぎし】

棕野には、棕野本川を遡上した津波で運ばれた蛸が、石垣に張り付いていたという伝承が残っていることから、「タコぎし」と呼ばれる地名がある。

され
佐連には、「1854年のことだと思うが、佐連を襲った大津波で、当時の佐連集落の6割がやられた」という言い伝えがある。



タコぎし



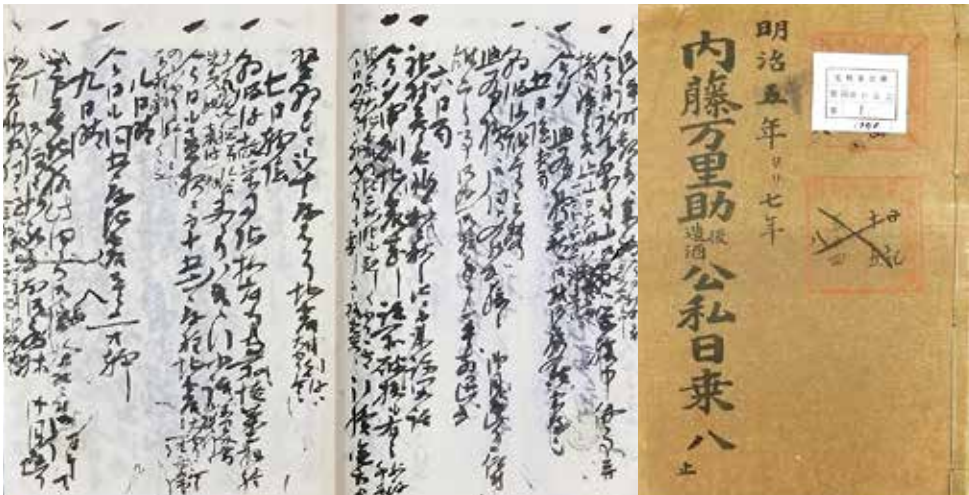
地理院タイルを加工して作成

平野鎌田には、「大津波が押し寄せて家ごと流された」「鎌田の家で糸車を回していたら、糸車ごと津波に流された」という言い伝えがある。

おおつみ おつみ
大積又は小積には、「船が浜から離れた田に打ち上げられた」という言い伝えがあるんだ。また、小積には6～7mの津波の言い伝えがある。

船越には、「津波で牛が流された」「海岸の石垣が全て流された」という言い伝えがある。

下田には、「津波は、こんな高潮のようなものではない。だから、津波が来た時にはこの山に逃げ上がれ。」という言い伝えがある。



内藤万里助後造酒公私日乗 (山口県文書館所蔵)

明治五年ノ濱田地震
(今村明恒著 震災予防調査会報告書第77号 1913年)

発生年月日	明治5(1872)年2月6日(新暦3月14日)午後4時40分頃
震源	島根県浜田沖
マグニチュード(推定)	7.1
各地の震度(推定)	震度7(最大震度): 島根県浜田市 震度5~6: 萩、小郡、島根県益田市 震度5: 下関、山口、徳地、弥富、油谷 (宇佐美ほか(2013):『日本被害地震総覧 599-2012』, 東京大学出版, 694pp.による)
被害の規模	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「馬関支庁記録」に、豊浦郡横野村(現下関市横野町)の横野八幡宮の鳥居が倒壊し、同郡彦島八幡宮の笠石が落ち、さらに同郡武久村(現下関市武久村)善福寺の門が大破するなどの被害が記録されている。 ■ 山口県初代県令中野梧一の日記「中野梧一日記」に、湯田温泉ではランプが壊れ、瓦が落ちたことが記されている。 ■ 道場門前の商家安部家の日誌「年中日誌」に、瓦が落ちる被害が記されている。 ■ 当時萩にいた旧萩藩士内藤万里助の日記「内藤万里助後造酒公私日乗」からは、萩でも被害があり、16日まで余震が続いたことがわかる。 ■ 島根県浜田測候所が地震から40年後の明治末期に行った調査結果をとりまとめた「明治五年旧二月六日浜田地震」には、萩市沖の見島で約1.2mの海面上昇があったことが記されている。
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 島根県を中心とする日本海沿岸地帯で、死傷者は1,100人以上に上り、家屋の全半壊は焼失を含めて1万件弱に及んだ。特に島根県では、死者約550人、家屋の全潰約5千棟が発生した。 ■ 島根県浜田市の海岸では地盤の著しい隆起・沈降が起きた。また、地震の5~10分前に海水が最大で約2.4m引いた後、地震後に最大で約3mの高潮が押し寄せた。



はまだじしん にほんかいがわ ほざしみしま つなみ
 浜田地震では、日本海側の萩市見島で約1.2mの津波が来たんだ。
 地震のゆれによる被害だけでなく、津波にも注意が必要だよ。

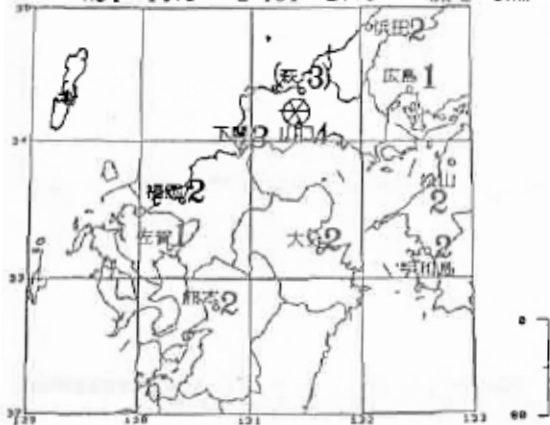
トピックス

震度の観測

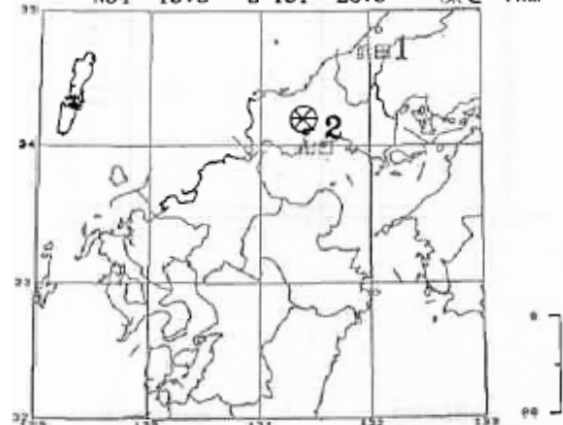
平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機に、都道府県による震度計の整備が進められ、山口県では、平成9年3月に震度計の設置が完了し、4月から運用が開始、11月から気象庁が発表する地震情報に利用されているんだ。

地震情報で発表される山口県内の震度観測点は、現在、山口県54地点、気象庁10地点、防災科学技術研究所12地点の76地点なんだよ。



1987年11月18日00時57分(M:5.2) 山口県南部
 N34° 14.3' E 131° 27.5' 深さ 8km


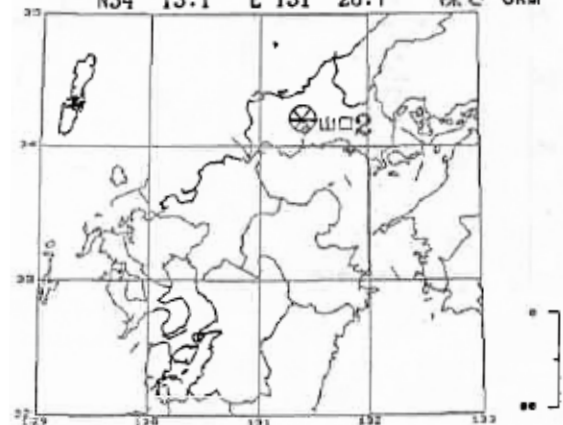
震度分布図(本震:11月18日0時57分)

 1987年11月21日08時28分(M:3.6) 山口県南部
 N34° 13.8' E 131° 26.3' 深さ 7km


震度分布図(余震:11月21日8時28分)

 1987年12月04日01時32分(M:3.3) 山口県南部
 N34° 14.0' E 131° 26.4' 深さ10km


震度分布図(余震:12月4日1時32分)

 1987年12月09日04時28分(M:3.4) 山口県南部
 N34° 13.1' E 131° 26.7' 深さ 6km


震度分布図(余震:12月9日4時28分)

発生年月日	昭和 62 (1987)年11月18日0時57分		
震源	山口県中部(山口市の北東約10km 北緯34度14.31分, 東経131度27.45分)		
マグニチュード	5.4	深さ	8.38km
各地の震度	震度4(最大震度):山口 震度3:下関、萩(震度3相当)		
被害の規模	(人的被害)軽傷者2人 (住家被害)非住家一部破損1棟 <被害総額>約8,300万円		
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 山口では、昭和 43 年以來 19 年ぶりに震度 4 を記録した。 ■ 11 月 18 日 0 時 57 分の本震以降、長期にわたって余震が発生した。 ■ デパート内のシャンデリア、陳列物の落下、地割れ、木造家屋の全壊、コンクリート造りの建物の壁に生じた亀裂、木造家屋の壁に生じた亀裂、石積み造り基礎の石の移動、窓ガラスの破損、水道管の継ぎ手部分の破損が発生した。 ■ 震源地の南方では、墓石、石碑、石灯籠が転倒したり、移動した。 		



やまぐちけんちゅうぶ じしん きかん よしん ほっせい
 山口県中部の地震では、長い期間、余震が発生しているんだ。

大きな地震が発生すると、建物が傾いたり土砂災害が起きやすくなることがあるんだ。

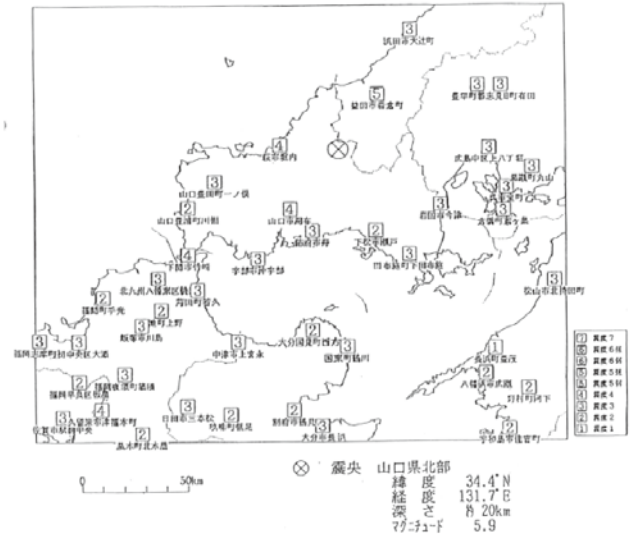
その後に発生する余震でも被害が生じやすくなっているから注意してね。



住宅被害

震度分布図

1997年 6月25日 18時50分



震度分布図



住宅被害



住宅被害



道路被害

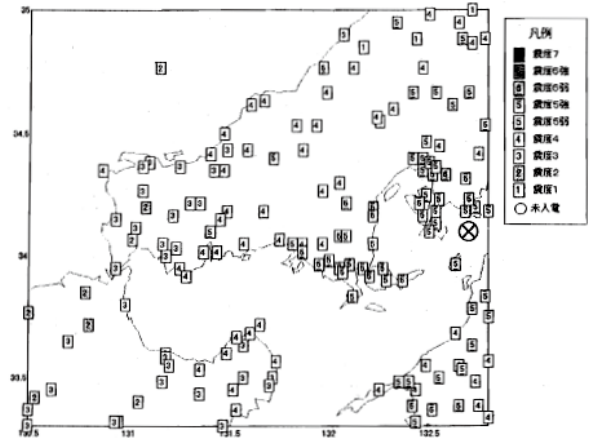
発生年月日	平成9(1997)年6月25日18時50分		
震源	山口県北部(山口・島根県境付近 北緯34度26.3分, 東経131度40.1分)		
マグニチュード	6.6	深さ	12km
各地の震度	震度5強(最大震度): 島根県益田市 震度4: 萩市、山口市、下関市		
被害の規模	(人的被害) 軽傷者2人 (住家被害) 全壊1棟、半壊7棟、一部損壊216棟 <被害総額> 約4億2,700万円		
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 家屋の全半壊など比較的被害の大きいものは、震央の南西約5kmに位置する阿東町生雲西分(現山口市阿東生雲西分)に集中し、3棟の家屋が全半壊し、コンクリートの舗装道路に40mにわたって亀裂が生じた。 ■ 中部地方(福井市: 震度2)から九州南部(鹿児島市: 震度1)にかけての広い地域で揺れが観測された。 		



山口県内には 10 以上の活断層が存在し、これらの活断層が動いた場合、大きな揺れが想定されているんだ。
地震は起きないと思わず、住まいの耐震化を進めて、地震に備えよう。



住宅被害



2001年3月24日 15:27:54.5 34° 7.7'N 132° 41.7'E 46km M:6.7 安芸灘

震度分布図



住宅被害



地震による被害



地震による被害

発生年月日	平成13(2001)年3月24日午後3時27分		
震源発生場所	安芸灘(北緯34度7.7分, 東経132度41.7分)		
マグニチュード	6.7	深さ	46km
各地の震度	震度6弱(最大震度): 広島県東広島市、熊野町、大崎上島町 震度5強: 岩国市、柳井市、久賀町、大島町、東和町、橘町、和木町、大島町、田布施町、平生町、阿東町		
被害の規模	(人的被害) 重傷者1人、軽傷者11人 (住家被害) 全壊3棟、半壊46棟、一部損壊1,437棟 (その他被害) 道路13ヶ所、河川5ヶ所、港湾9ヶ所、漁港施設など9ヶ所、学校施設など89ヶ所 など <被害総額> 約4億8,000万円		
被害の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本列島の下に沈み込むフィリピン海プレート内部で発生した地震である。 ■ 山口県錦町宇佐(現岩国市錦町)の中国自動車道下り線で、長さ25mにわたって路面に亀裂が入った。 ■ 震源の深さが51kmと深かったことから、瀬戸内海沿いに中国・四国、九州地方の広範囲にわたり震度6弱から震度4を記録した。 		

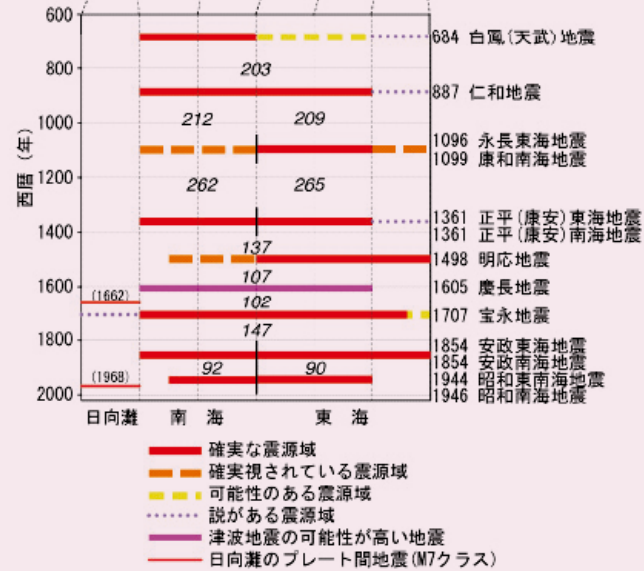
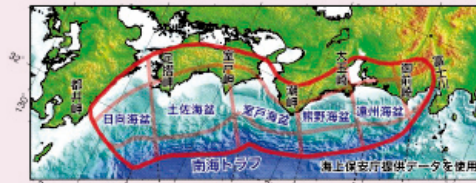


げいよじしん しいない らっか けが
芸予地震では、室内でテレビや物の落下によって、怪我をした人がいるんだ。
家具がたおれたり、棚に置いている物が落ちたりしないように固定しよう。

トピックス



南海トラフ地震



東海沖から九州沖にのびる南海トラフを震源とする地震は、過去に概ね100~150年周期で発生し、日本各地に大きな被害をもたらしているんだ。

南海トラフ地震は、今後30年以内に70~80%程度の確率で発生するとされているんだ。

南海トラフで過去に起きた大地震の震源域の時空間分布

(平成 25 年 5 月 24 日地震調査研究推進本部「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)について」より抜粋)

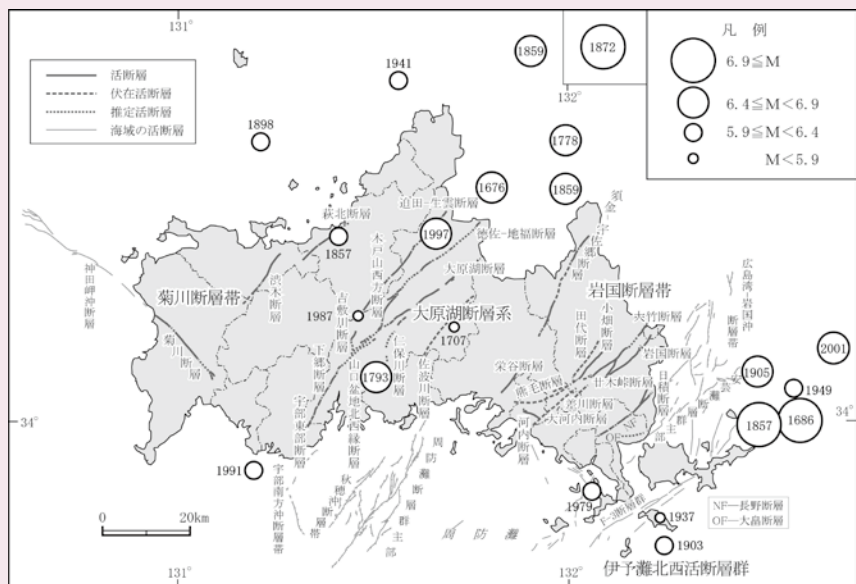
トピックス



山口県の活断層

活断層とは、過去に繰り返し活動し、今後も再び活動すると考えられる断層だよ。

山口県には、10以上の活断層が存在(全国には、約2千の活断層があると推定されている。)し、活動間隔は数千年から数万年とされているから、発生時期の推定は困難なんだよ。



山口県の活断層と被害地震の震央(江戸時代以降)

(震央の位置は、宇佐美ほか(2013):「日本被害地震総覧 599-2012」,東京大学出版,694pp.に基づく)
(注 右上の枠で囲んだ震央 1872(浜田地震)の実際の位置はその真北約 40 km.)

トピックス



— 家具の転倒防止など —

地震が発生すると、家具が転倒して下敷きになったり、避難の邪魔になるおそれがあるんだ。しっかりと家具を固定したり、家具の配置を見直そう。

- 寝室や出入り口付近には、背の高い家具を置かない。
- 重いものは低い位置にしまう心がける。
- タンスなど ……L型金具やポール(突っ張り棒)で固定
- 観音開きの扉 ……止め金具などで飛び出しを防止
- テレビなど ……金具や耐震シートで固定
- ガラス ……飛散防止フィルムを貼る



家具の配置や寝る場所を考えよう

トピックス



— 地震の心得十か条 —

地震の発生に備え、いざという時に適切な行動がとれるよう、考えておこう。

- | | |
|---|---|
| 1 まずわが身の安全を図れ
けがをしたら火の始末や避難行動に支障がでる。
テーブルなどの下にもぐり身の安全を。 | 2 すばやく火の始末
あわてず騒がず冷静に。日頃から習慣化を。火元付近の整理整頓を忘れずに。 |
| 3 戸を開けて出口を確保
特に中高層住宅では避難のための出口確保が重要。 | 4 火が出たらすぐ消火
もし火災が発生しても天井に燃え移る前なら初期消火できる。できれば消火器の設置を。 |
| 5 外へ逃げるときはあわてずに
落ち着いて行動を。屋外に出るときは、瓦やガラスなどの落下物に注意。 | 6 狭い路地やブロック塀に近づかない
屋外では公園などに避難。落下物やブロック塀などの倒壊の危険があるところには近づかない。 |
| 7 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意
山間部や海岸付近で地震を感じたら、すぐに安全な場所に避難するのが鉄則。 | 8 避難は徒歩で、荷物は最小限に
自主防災組織など集団で避難しよう。荷物を欲張ると避難に支障がでるので注意。 |
| 9 協力しあって応急救護
多数の死傷者がであれば医療機関などでの対応が限界に。みんなで助けあって応急救護を。 | 10 正しい情報を聞く
ラジオ・テレビや市町・消防などから正しい情報を入手し、適切な行動をとろう。 |